

1 津山市重点取組

津山市立広戸小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまづき解消	学力向上担当 各担任	○授業の終わりに児童が自分の言葉で学習の振り返りができる時間を確保する。 ○時数制限や段落指定などの条件を理解し、それに合った文章を書くことができるようにする。 ○自分の考えをもち、それを順序立てて説明することができる力をつける。	年間を通じて	○朝学習、授業、放課後学習、家庭学習を運動させる。 ○朝学習や授業の中で、小テスト、プリント等で確認する。 ○学習指導のスタンダードに沿って授業を組み立て、振り返りの時間を毎時間きちんと確保する。 ○授業の中に書く活動を積極的に取り入れる。 ○書いたことをほめたり、正解例を示したりする。 ○放課後学習などで活用問題に取り組みながら、書くことへの抵抗を減らしていく。 ○個人の課題に合わせたプリントにも取り組ませる。 ○家庭学習でも問題データベースを活用し、繰り返し定着を図る。	○すべての児童が自分の言葉で学習の振り返りができる。 ○求められている条件を理解し、それに合った文章を書く。 ○問題文や選択肢をしっかりと読み取る力をつけ、算数の問題など実生活でも活用できるようにする。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	学力向上担当 生徒指導担当 各担任	○家庭学習の定着と充実を図る。 ○スマホやゲーム等の使用時間の削減を図る。	年間を通じて	○家庭学習の手引きを再度確認する。 ○参考になる自主学習ノートを展示したり、月ごとに全校が見える場所にノートのコピーを掲示したりして、意欲をもたせる。 ○ノーマディアや「生活きらきらカード」の取り組みを通して、生活習慣について意識できるように、児童や家庭に積極的に呼びかける。 ○懇談会でメディアに関する資料を使ったり、講演会を行ったりして、保護者の管理意識を高める。	○各学年決められた時間を意識し、家庭学習を行う。3年生以上は、毎日自主学習をする。 ○スマホやゲームの時間を1日2時間以内にす。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小学校)
○国語については、県平均、全国平均と比べると正答率が高い。
○算数については、「数と計算」の領域については理解できている児童が多いが、「量と測定」の領域で課題がある。
○国語・算数ともに「書くこと」の領域で課題がある。
県(小学校)
○3年生がは国語、4・5年生は国語・算数ともに県平均を上回っている。
○国語では、どの学年も基礎基本、活用問題ともに県平均を上回っており、特に活用問題との差が大きい。
○国語では指定された長さや条件に合わせて文章を書くことに課題がある。(4・5年)
○算数では、どの学年も数値や条件を読み取り、それをもとに説明することに課題がある。

・1文を接続語を使って2文に分けて書く。：本校63.6%(全国47.8%)
・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。：本校90.9%(全国68.2%)
・図形の面積の求め方を記述する。：本校27.3%(全校43.9%)

【学習状況調査の結果】

全国(小学校)
○家庭での学習時間(1時間以上)の割合が72.7%であり、全国平均(66.1%)に比べて高い。
○「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合は45.5%で、全国平均(38.8%)に比べて高い。
○「読書が好きだ」と答えた児童の割合は全国平均を28.4%上回っているが、平日1時間以上読書をしている児童の割合は9.2%下回っている。
県(5年)
○平日にゲームを2時間以上する児童の割合は22.2%で、県平均(33.3%)と比較すると低い数値となっている。
○平日に携帯電話やスマホを2時間以上使用している(ゲーム以外)割合は22.2%で、県平均(13.9%)と比較すると高い数値となっている。
○平日にテレビ等を2時間以上視聴する割合は33.3%で、県平均(47.6%)と比較すると低い数値となっている。
○地域では、進んであきらましているが、学校では進んでいないという児童が多い。

成果

○毎日の学習で「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を意識して書くことで、分かったことや苦手なところに気づき、意欲的に取り組むことができた。
○放課後学習で活用問題に取り組むことで、長文を読むこと、書くことに対して少しずつ慣れつつある。
○朝学習に取り組むことで、基礎基本が身につけてきた。
○自主学習のノートを掲示したり、がんばりを表彰したりすることで、取り組む意欲が高まった。
○1年1冊・100冊を目標にしていることや、読書週間の取り組み等により読書量が増え、読む習慣がついてきている。
○国語科を中心に校内研究を進め、自分の考えをもち、書いたり伝え合ったりする活動を授業の中に位置づけてきたことで、少しずつ力がついてきた。国語については、3～6年すべて県、全国平均を上回った。
○校内でテストの結果を分析し、課題を共通理解することで、苦手なところに取り組むことができた。

課題

○字数を制限されたり、段落を指定されたり、条件付きで文章を書くことを苦手としている。
○考え方を解釈して説明を記述することを苦手としている児童が多い。
○家庭学習(特に自主学習)の質に改善の余地がある。
○各学年、テレビやゲーム、スマホ等の時間が少しずつ増え、生活習慣の乱れが見られる。特に高学年になるとスマホの使用時間が増えており、使い方等についての指導が必要である。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
○字数制限や、段落指定などの条件を理解し、それに合った文章を書く。	○2学期に学力定着状況確認テストを行い、課題に対してどれだけ習得できているか検証する。	○求められている条件を理解し、それに合った文章を書く。	○放課後学習などで活用問題に取り組みながら、書くことへの抵抗を減らしていく。 ○授業でも書く活動を積極的に取り入れる。 ○書いたことをほめたり、正解例を示したりする。					
○言葉や数値、図などをもとに、自分で考えたり、考えを順序立てて説明したりすることができる。	○2学期に学力定着状況確認テストを行い、課題に対してどれだけ習得できているか検証する。	○問題や選択肢をしっかりと読み取る力をつける。 ○算数の問題など実生活でも活用できるようにする。	○家庭学習で問題データベースを活用し、繰り返し定着を図る。 ○授業でも書いたり話したりする活動を積極的に取り入れる。 ○既存のプリントを児童の実態に合わせて整理し、個人の課題に合わせたプリントに取り組ませる。					
○生活習慣の改善を図る。	○1、2か月に一度、研修の時間に家庭学習の状況を交流する。 ○学期末にアンケートを行い、改善状況を検証する。	○各学年、決められた時間を意識し、家庭学習を行う。 ○スマホやゲーム、メディアに触れる時間を1日2時間までとする。	○自主学習ノートを展示したり、全校が見える場所に掲示したりして、意欲をもたせる。 ○学活、朝の会や朝の会等で、スマホやゲームの使い方等継続して指導していく。 ○学級懇談等を利用して、保護者の協力を仰ぐ。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上60%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

○県・全国学力学習状況調査の分析をもとに教科学力の向上を目指す授業改善の取り組み
○家庭学習の手引きの共有化
○ノーマディアに「チャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家族で見直す機会をつくる。(勝北ブロックで同期間に取り組む)
○①靴揃え②チャイム着席(教職員も、チャイムに始まり、チャイムに終わらせる。)

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の習慣化を呼びかける。
○自主学習への取り組みを通して、予習と復習を意識づける。
○ノーマディアや「生活リズムきらきらカード」の取り組みを通して、生活習慣について意識できるように積極的に呼びかける。
○メディアに関する資料を使ったり講演会をしたりして、保護者の管理意識を高める。